



ギターの製法を取り入れて 楽器の豊かな響きを生かした ギターアコースティック・スピーカー オンキヨー「D-TK10」を聴く

■石田善之

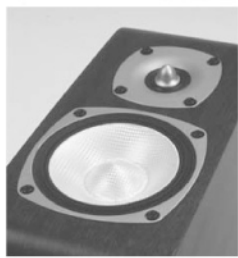
D・TK10は、自然な響きを大切に
する楽器と同じようにキャビネット全体
を響かせ、音楽の豊かな響きや余韻を部
屋一杯に広げる生き生きとした音を目指
したスピーカーで、アコースティック・
ギター作りの名門、高峰楽器製作所とオ
ンキヨーとの共同開発による。

そのキャビネットはギターの共鳴板素
材と同様のマホガニーを使用し、板の選
別や管理から加工、組み立て、塗装まで
すべて高峰楽器でギターと同じ工程で手
作りされる。側板はマホガニーの単板で、
内側にギター独特の「力木」を配して響
きと剛性のバランスを取り、バツフルを
含む他の面は一枚の積層板を大きくラウ
ンドさせている。側板との接合にはスリ
ットの入ったフレキシブルに曲がる細い
帯状の板を接着代としつつ響きを止めな
い「ライニング」が使われるなど、随所
にギターと同じ製法が用いられている。
台座はCNCルーターを使って重くて
硬いローズ・ウッドの集成材を三次元に
削り出したもので、滑らかな形状により

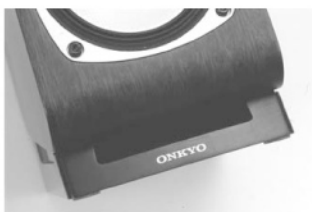


オンキヨー D-TK10
¥168,000 (ペア)

●型式：2ウェイ・バスレフ型 (防磁) ●ユ
ニット：[W] 10cm New A-OMFコーン
[T] 3cmリング●公称インピーダンス：4Ω
●出力音圧レベル：80dB/W/m●最大
入力：200W●周波数範囲：50Hz~100kHz
●クロスオーバー一周波数：3.5kHz●キャ
ビネット内容積：4.2リットル●大きさ：
133W×276H×220Dmm●重さ：2.9kg



ユニットは3層構造でセンターキ
ャップ一体型の「New A-OMFコ
ーン」採用の10cmワウファーと、
3cm径のリング・トゥイーター



台座はローズ・ウッド集成材を削り出したも
ので、スリット状のバスレフ・ダクト「アド
バンスAERO ACOUSTIC DRIVE」が採
用されている。ONKYOのロゴは別の素材か
ら文字を切り出し、同様に文字を切り抜いた
プレートにはめ込むという凝った技法が使わ
れる



3.5mm厚マホガニー単板による側
板は内部の力木に沿って緩い曲面を
描いている。センター部分は一枚の
マホガニーとラウンの合板を曲面形
状にしたもの。前面と下部には内部
にMDFボードが入る。しっかりとし
た作りの端子は台座部分に付く

気流抵抗を低減して雑音を抑え、同時に
スピード感のある低音を生み出す独自の
スリット形バスレフダクトを兼ねてい
る。ONKYOのロゴは高い精度でレー
ザー・カッティングされた「象嵌」技術
によるもの。音を出しているときはもと

より、出していないときでも、持つてい
る喜びを感じさせてくれるシステムだ。
スピーカーの存在を忘れて
音楽に没入できる

パツと音を出した瞬間から窮屈さのな

い伸びやかな音の広がりや音場構成を味
わうことができ、コンパクト・スピーカ
ーが苦手とする中低域から低域にかけて
のエネルギーが豊かで、全体に安定感の
ある音場性による大らかな鳴り方が印象
的である。また、音の立ち上がりに優れ、



筆者の自宅にて試聴。天井の高い11.5畳ほどのリスニング・ルームだが、D-TK10はその大きな空間で伸び伸びと鳴り、スケールの大きな音を聴かせてくれた

緻密さや繊細感があり、歪みやノイズの抑えられた上品な音を聴かせる。

特に本機が見事に実力を発揮し、音楽を生き生きと伝えてくれたディスクを紹介したい。

1枚目はロッシーニのオペラの名旋律をギター一本に乗せた福田進一『ロッシーニアーナ』で、超絶技巧とも言えるテクニクと歌心が見事なアレンジで表現されている。ギターは銘器ガエターノ・ガ

ダニーニを使い、北イタリアの教会での録音だが、部屋一杯に音が広がり、窮屈さのない豊かな音場を聴かせる。

2枚目はミクローシ・ユ・ペレーニのチェロ、アンドラーシュ・シフのピアノによる『ベートーヴェン/チェロとピアノのための作品全集』で、『魔笛の主題による変奏曲』を聴くと、伸び伸びと弾むようなリズム感と躍動感が聴き手を喜ばせる。ピアノの低音部の厚みも

伝えられ、チェロの伸び

オンキヨーの最新技術が投入された新開発のユニットを採用

オンキヨーには新世代のリファレンス・スピーカーとしてD312E、D-112Eなどがあり、高い評価を受けている。D-TK10のユニットもこれらと同じコンセプトと素材、手法で作られている。

狙いとしてはピストン駆動部域の拡大をテーマとし、素材や形状による不要な雑音の徹底的な排除が挙げられている。軽量高剛性が振動板の理想とされているが、オンキヨーでは今日のアンプが高性能化していることから、振動板をより高剛性化することで低域の伸びと量感を得ようというもの。特に小型システムではこれが大変に有効であるとして、三層構造の「New A-OMFモノック・コーン」のウーファー振動板が作られた。素材はまず高級タイヤのノイズ抑制用として使われているPEN（ポリエチレン・ナフタレート）繊維、中心部には天然素材のコットン、そして三層目はアラミド繊維である。

センターキャップまで一体化された10cm口径の振動板は39mmの大口径のボイス・コイルでバランスド・ドライブされる。エッジは振動板の反射を抑制する上でも効果の高いV字形で、発泡ゴムが使われている。フレームはアルミ・ダイキャスト、大型フェライト・マグネットを採用した防磁構造だ。

トイーターはリング型で駆動ポイントは外周と内周の中点となり、これもバランスド・ドライブである。リング型では内周が固定されているためにドーム型では生じやすい分割振動の発生が抑えられる。中央の砲弾型の部分（アルミ削り出し）は振動板の保護と同時にイコライザーでもあり、指向性や拡散性をコントロールする。

ウーファーは10cm、トイーターは3cm、クロスオーバーは35kHz。ネットワーク部品として音質面で信頼性の高いドイツ製のWIMA社のコンデンサーが使われている。



3cm径のリング型振動板採用のトイーター。中央部のイコライザーはアルミ削り出し。バック・チャンバー内部には粗めの吸音材が入っている



New A-OMFモノック・コーン採用の10cmウーファー。ワンピース構造の振動板、大型フェライト・マグネットと大口径のボイス・コイル、ダイキャスト製フレームなどがわかる



【D-TK10で聴きたいディスク】



『ロッシーニアーナ』
福田進一 (g)
【デンオン COGQ5】
(CD & SACD)



『ベートーヴェン/チェロとピアノのための作品全集』
ミクローシ・ペレーニ (vc)
アンドラーシュ・シフ (p)
【ECM UCCE2040~1】



『ドイツ・ロマン派歌曲集』
トーマス・クヴァストホフ
(Bs-Br) ユストゥス・ツァイ
エン (p)
【グラモフォン UCCG1195】

切った倍音には誇張感がない。スピーカーの存在を忘れて音楽に没入込むことができる。

3枚目はクヴァストホフ（バス・バリトン）の『ドイツ・ロマン派歌曲集』。硬さを伴うことなく、人の声の持つエネルギーをしっかりと聴かせる。押し付けがましきない暖かな音場表現が大変に

見事で、ピアノとの距離も程よい。D・TK10は、システムとしてはインピーダンスが4Ω、能率が80dBとやや低い。ドライブするアンプに十分に力のある、駆動力の大きな製品と組み合わせることで、本機の良さが最大限に引き出されるだろう。